



ニ ム ド プ ラ ス ユー



NIMD + you

(National Institute for Minamata Disease : 国立水俣病総合研究センター)



写真：一般公開より

所長ご挨拶

国立水俣病総合研究センター所長 正林 督章（しょうばやし とくあき）



7月9日付けで国立水俣病総合研究センター所長を拝命しました。厚生省の医系技官として採用され、これまで30年近く勤務してきており、環境省は平成22年に石綿健康被害対策室長以来久しぶりの勤務です。

直近は国立がん研究センターで理事長特任補佐として「がんのゲノム医療の推進」や「国際戦略」、「人材育成」を主に担当しており、がんに関連する研究活動を支援する業務がメインだったので分野は異なるものの国水研の業務とは重なる部分も多いかと思っています。研究者をはじめ、職員一人一人の話をよく聞き、国水研の運営に貢献できればと思っています。

国立がん研究センターの前は厚生労働省の健康課長として受動喫煙防止対策の強化のための健康増進法改正やHPVワクチンへの対応を含めた予防接種行政、地震や水害時に避難している住民の健康管理などに携わってきました。その前は結核感染症課に所属し、新型インフルエンザへの対応、B型肝炎、C型肝炎への対応などその時の省のトッププライオリティを中心になってやらせていただき、多忙を極めました。充実した日々を過ごして参りました。学生時代にタイの山奥で1ヶ月間生活し、公衆衛生活動に目覚め、WHO勤務を夢見て厚生省に入省し、実際に1999年にはWHOジュネーブ本部に勤務させてもらいました。勤務医をやめて行政官になりましたが、やりがいのある仕事を多数やらせていただき、官庁に入って良かったと心の底から思っています。

数年前に健康行政に携わったことがきっかけになり、ジム通いが趣味になっています。平日は夜8時から11時まで3時間、週末は午後いっぱいを使ってキックボクシング、ウェトリフテティング、ヒップホップダンス、ヨガなどに興じております。カラオケも大好きで職場の仲間はもちろんこと、大学生の娘、息子達とカラオケボックスよく行き、歌っています。

こんな男ですが、皆様宜しくお願いいたします。

次長ご挨拶

国立水俣病総合研究センター次長 眼目 佳秀（さっか よしひで）



設立から41年目の伝統ある国立水俣病総合研究センターで、皆様と働かせていただくことを大変光栄に思っております。環境庁時代の平成11年に事務系採用で入庁し今年で20年目になります。2009～2011年に北九州市役所に出向しており、九州は2度目の赴任となります。

職場が変わった際や、初対面の方にいつも尋ねられるのは苗字の珍しさについてです。「眼目」という名字は富山県中新川郡上市町（なかにいかわぐんかみいちまち）にある地名に由来しています。諸説あるようですが、もともと「察花（さっか）」という地名であったところ、領地視察に訪れた加賀藩前

田の殿様が風光明媚さに心を打たれ「この土地を眼目（がんもく）とせよ」と命じたとか。江戸時代は隣国加賀藩の支配下にあった越中。殿様の言うことなのでしかたなく地名を「眼目」と書くことにしたものの、加賀藩へのささやかな抵抗からなのか、読み方は昔からの「さっか」のまま残ったのかもしれませんが。

富山は、4大公害の一つイタイタイ病がおこった地でもあります。友人の家の農地はカドミウム汚染田であった（復田事業は完了済）と聞いたことがあります。社会科の授業でもイタイタイ病について詳しく学び、これが環境省で働く動機の原点となっと思っています。いずれの公害についても、患者さんの福祉の向上、公害を繰り返さないための更なる知見の充実、国内外へ発信が重要と考えます。NIMDはこの重要な役割を担っていると認識しております。

微力ではありますが、全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

1. 新入職員および特別研究員・PD（ポスドク）紹介



【電気刺激をしながら歩行訓練中】

岩永 壮平（臨床部 リハビリテーション室 医師）

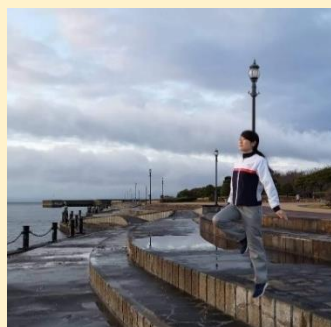
今年4月から臨床部リハビリテーション室でお世話になっております。これまでは、久留米大学整形外科に所属し、脂肪肝や疼痛に対する神経筋電気刺激や運動療法に関する研究に携わってきました。国水研では、外来リハビリに関する業務と、水俣病患者さんの慢性疼痛治療に関する研究をしています。これまでの経験を活かし、疼痛で困っている方々へ貢献できる研究を行っていきたくと思っています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

出雲 公子（環境・保健研究部 環境保健研究室 特別研究員）

水俣に来て2年半になります。専門は衛生学で現在は食品衛生の観点から、近年注目されている深海魚について情報不足の魚種を中心に水銀濃度を調べています。一方で魚介類は日本の食文化には欠かせない食材で、セレンやDHAなど栄養素を多く含みます。これら栄養素も測定し、健康に良い魚介類摂取の考察に必要な情報の発信を目的に研究しています。写真はパソコンの背景に使っているもの。美しい風景に癒やされ、多くの方の優しさと支えに感謝しながら、日々研究に取り組んでいます。



【春、とんとん峠から観た不知火海】



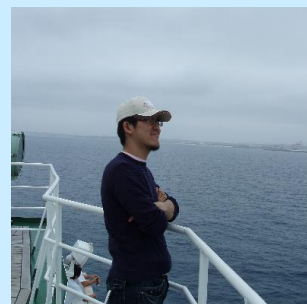
【エコパークで散歩中の一コマ】

穴井 茜（国際・総合研究部 地域政策研究室 特別研究員）

昨年3月に大学院を修了し、同年4月から初めての就職先として、国水研で研究をしています。大学院では公衆衛生学を学びました。現在は、過去の調査等で得られた様々なデータの再解析を中心に行っています。水俣に住んで1年、自然豊かな環境の中、近所の方に野菜やおかずをいただいたりしながら、とてもQOLの高い日々を過ごしています。趣味は映画鑑賞と旅行と散歩です。特にエコパークで歩くことが好きです。今年は山登りと野菜作りに挑戦したいと思っています。

多田 雄哉（環境・保健研究部 環境化学研究室 特別研究員）

私は海の微生物やプランクトンを対象として研究を行っています。これまで、日本沿岸域をはじめ、南極海や太平洋など、様々な海域に生息する小さな生物たちの分布や生き様を調べてきました。国水研では、これまでの経験を活かし、海プランクトンへの水銀・メチル水銀の蓄積、また、環境中の微生物による水銀のメチル化過程に関する研究を進めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



【南極航海後、海鷹丸船上にて】



【訪問先の大学にて】

片岡 知里（日本学術振興会特別研究員PD

受入：環境・保健研究部）

2019年4月より、環境・保健研究部にて勉強させて頂いています。これまではモデル生物の一種であるメダカを使用して、ナノ物体（外寸100 nm以下の物体）が水圏生態系に与える影響を評価する研究をしてきました。今年度からは新たに、マイクロプラスチックの海洋汚染問題に関する研究に着手しています。これまでの経験を活かして、海洋の生態系保全や人類の安心・安全に貢献する研究をしたいと思っています。

2. 研究室紹介

地 域 政 策 研 究 室

Think globally,
act locally!
(穴井・疫学)

研究室の取り組み

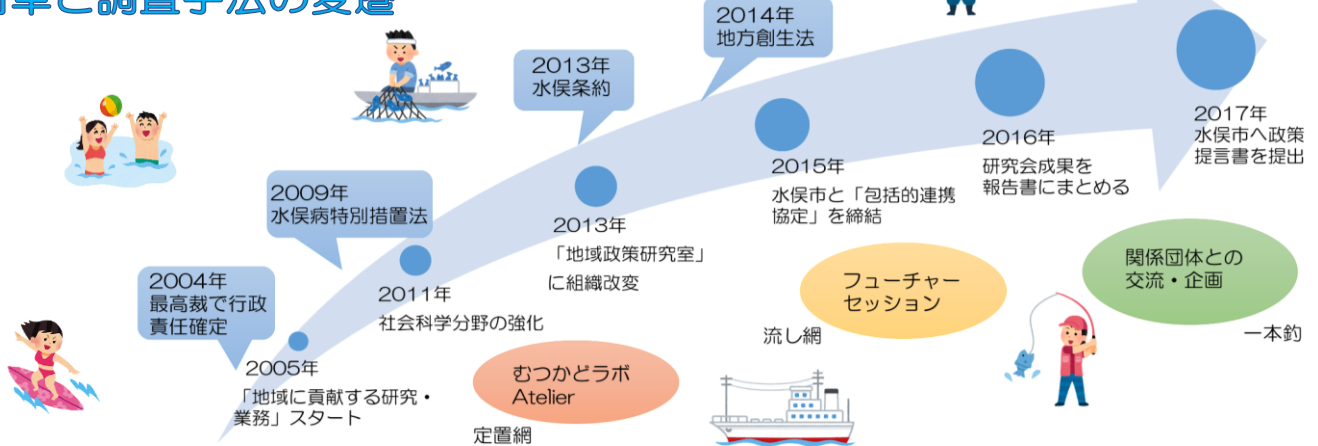
私たちの研究室は「社会科学研究室」を前身とし、2005年から「地域に貢献する研究・業務」を担ってきました。NIMDのなかで地域の皆様と接する機会が最も多い研究室です。これまで、商店街の空き店舗を利用したサテライト事務所を開設し、中心市街地の活性化に関する調査研究を行ったり、さまざまな場所におけるワークショップを通して、住民からのアイデアや意見を汲み取ったりしてきました。水俣市及び水俣高校と協定を結び、地域に愛される研究室になるよう、日々精進を重ねております。



地域社会との美しい調和：ハーモニー
(松本・ピアノ)

小さな研究室の大きな野望
(原田・社会学)

沿革と調査手法の変遷



患者さんと一緒にコンテンポラリーダンスのワークショップに参加

胎児性水俣病患者の社会的環境に関する研究

患者さんご本人、ご家族、介護者、医療関係者、支援者等へのヒアリングで得られた過去のデータをもとに、患者さんたちの医療・介護、社会生活の実態等について、事例研究としてまとめています。

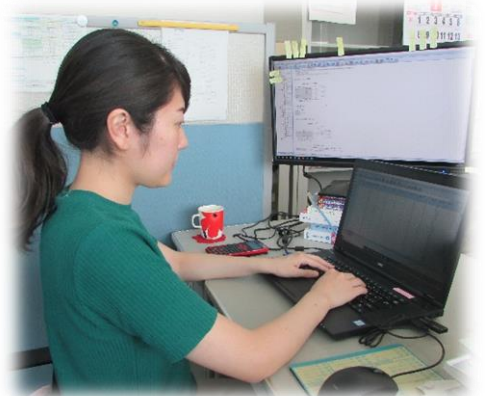
例えば、ある患者さんのご家庭では、その方の歩行訓練のために、試行錯誤で手押し車を何台も作って、リハビリにあたるようなことを行っていました。

医療や福祉、行政サービスが届いていない初期の段階において、ご家族や近しい方々が、患者さんの生活改善のために様々な工夫を行っていたといった興味深い事実なども判明しています。

メチル水銀曝露と健康リスクに関する疫学研究

本研究では、主に過去に収集されたデータを再解析し、メチル水銀曝露による健康リスクを評価しています。過去に行われた調査で得られたデータは、当時、十分に解析されなかったものも少なくありません。そのため、それらの貴重なデータを改めて解析し、将来の環境政策等の基礎資料および歴史的資料として残していきたいと考えています。

その他には、人々がより簡便に自らのメチル水銀曝露量を知ることができるよう、調査票を用いたメチル水銀曝露量の簡便な推定方法の検討等の研究を行っています。



真剣な表情でデータ解析中

3. イベント紹介

◎ 令和元年7月27日 国水研一般公開（オープンラボ）を開催しました！

国水研の一般公開（オープンラボ）を7月27日（土）に開催しました。猛暑の中、水俣市をはじめ周辺市町村から460名の方にご来場いただきました。誠にありがとうございました。今年も下記のような楽しく科学が学べる企画やリハビリ体験、国水研の研究紹介コーナーなどを準備し、みなさんに楽しんでいただけたものと思います。来年もいろいろな企画を用意しておりますので、お誘いあわせの上、是非お越しください。

【物づくり体験と健康チェック】

物忘れの予防に役立つ物づくり体験と体組成や物忘れの状態のチェックをしていただきました。



【選挙ポスターを作ってみよう！】

地域政策研究室から、小学校の社会科学習を意識した初企画。市議選、参院選直後ということで、自分の顔写真に公約をつけた模擬選挙ポスターを作成してもらいました。



【かみの毛の水銀測定】

今年も希望者に対して、メチル水銀の摂取状況を知る上で有用な「かみの毛」を試料とする水銀測定を受け付けました。



【シャボン玉の化学】

表面張力を、シャボン玉を使って説明しました。割れにくいシャボン玉体験や、シャボン玉で出来た円筒状の膜の中に入れてもらうなど、子供たちは大はしゃぎでした。



【地球って大丈夫？

身の回りの地球環境問題】

海洋プラスチック、温暖化、グローバルな水銀汚染などの環境問題や、手回し発電による発電量と家電の消費電力を比べてエネルギーの大切さを学びました。



【国水研の研究紹介】国水研では、関連する研究課題を6つのグループに分け、課題間の連携を取りやすくすることで研究を推進しています。その6つのグループそれぞれの研究内容についてポスター展示による紹介を行いました。

【いろいろかわるふしぎなジュース】

「化学変化の視覚体験」をテーマに、植物色素が酸性・アルカリ性で示す色調変化を楽しく観察。フルーツをトッピングしたら、おいしく飲んで熱中症対策☺



【ちりめんmonsterを探せ】

おかげさまで今年も大盛況でした。ちりめん漁獲物の中から、拾い出した小さな生き物（monster）は記念にレジン標本にして持って帰ってもらいました。



【水俣病情報センター便り】

〇1階のエントランスに

パンフレットケースを設置しました。

水俣病情報センターの展示に関するパンフレットや国水研で作成している研究に関するパンフレットを配布するためのパンフレットケースを1階のエントランスに設置しました。

来館者の皆様がパンフレットのタイトルが見やすく、取りやすくしました。



【新たに設置したパンフレットケース】

国水研の動き (平成31年2月～令和元年7月)

【平成31年】

- 2/ 5～6 「水銀に関する水俣条約批准能力強化」課題別研修 (マレーシア、他6カ国)
- 2/ 6 環境省九州地方環境事務所水俣研修
- 2/22 タイグローバルヘルスとユニバーサルカバレッジのためのパートナーシッププロジェクト (タイ)

3/18～19 研究評価委員会

3/20 動物慰霊祭

4/23 フィリピンにおける水俣条約批准推進事業テクニカルワーキンググループのための訪日研修 (フィリピン)

【令和元年】

6/12 機関評価委員会

7/27 国立水俣病総合研究センター一般公開

【編集後記】

毎年7月に開催している一般公開。この時期になると毎年親子で参加している友人から「今年も楽しみにしているよ」と声をかけてもらい、「いよいよだな」と実感します。一方で、「当日は上手にいくかな。皆さんに楽しんでいただけるかな」と少し不安もよぎります。今年も大盛況に終わった一般公開ですが、誌面を通じて、当日の楽しい様子や新しい企画の内容など感じていただけたと思います。

(中村篤)

2019.9 NIMD + you vol.48

【編集・発行】

環境省国立水俣病総合研究センター
〒867-0008 熊本県水俣市浜4058-18
TEL (0966)-63-3111
FAX (0966)-61-1145
ホームページ <http://nimd.env.go.jp>
Facebookでも情報発信しています！



国立水俣病総合研究センター (NIMD) のロゴマークです。

「水」の字をもとに、水俣の川と海をイメージし、また左側は「大人」、右側は「胎児」と水俣病で犠牲になった方々をも表しています。環境汚染による被害が二度と発生しないよう思いを込めて、「本来あるべき美しい自然の色」である水色や緑色で表現しました。

NIMD

: National Institute for Minamata Disease

アクセスマップ



【国水研へのアクセス】

- みなくるバス：青バス湯の児線
⇒とんとん峠下車 700m (徒歩約12分)
- JR 新水俣駅から5.5km
- 肥薩おれんじ鉄道 水俣駅から4.6km